

# キリバス

REPUBLIC OF KIRIBATI

---

## 任国情報

1990年

国際協力事業団  
国際協力総合研修所





## はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家、JICA事務所員、プロジェクト調整員、協力隊調整員とその御家族の多大なご協力を得ました。また、外務省、在外公館その他機関のご好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたく存じます。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

JICA LIBRARY

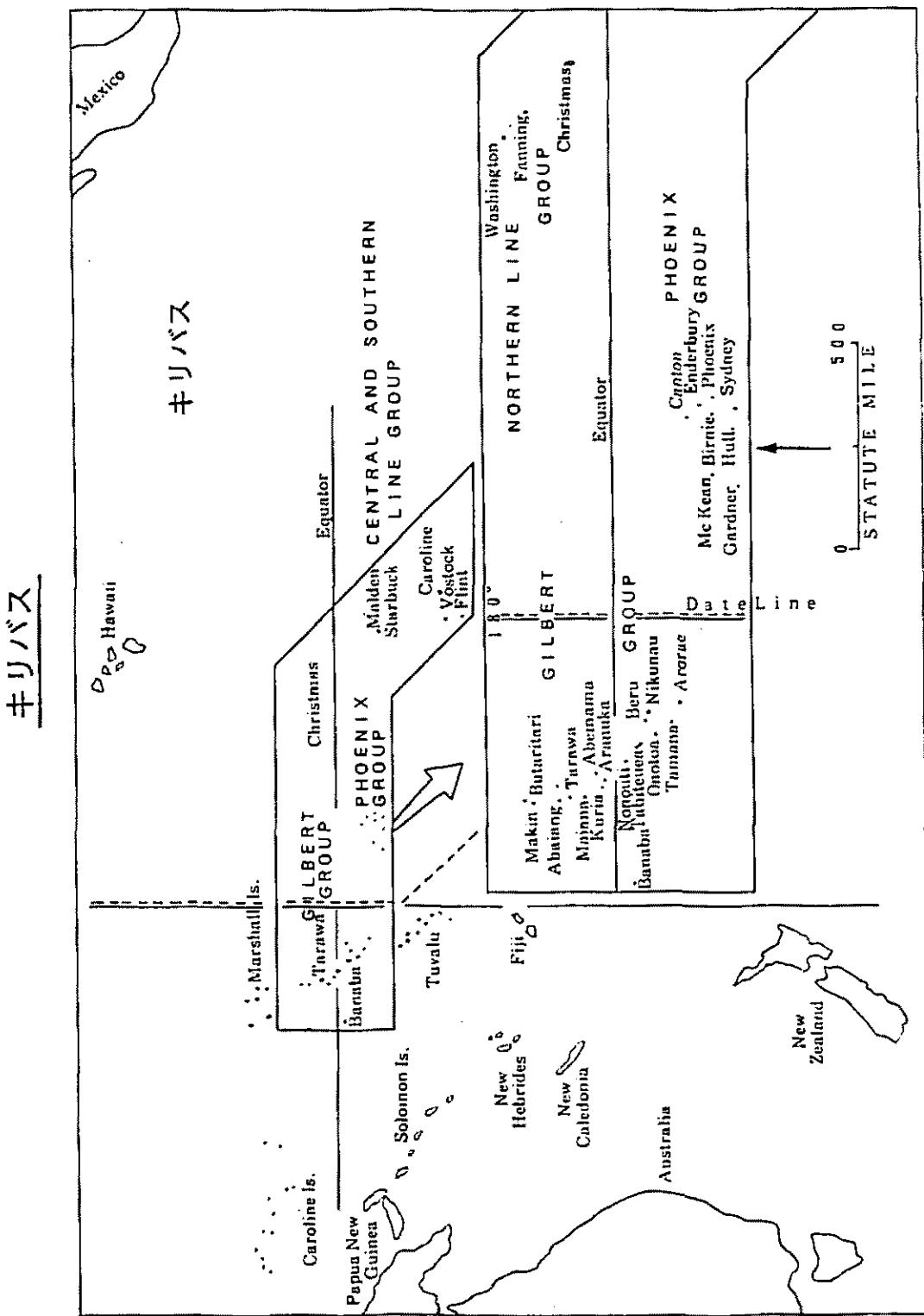


1080886(3)

平成2年2月

国際協力事業団  
国際協力総合研修所所長

カリバス



## 目 次

頁

### I 一般事情

1. 主要指標 .....	1
2. 略 史 .....	3
3. 政治, 外交 .....	5
4. 経済事情 .....	5
5. 我が国との関係 .....	11

### II 生活事情

1. 食生活 .....	17
2. 衣 料 .....	20
3. 住 宅 .....	22
4. 医 療 .....	23
5. 教 育 .....	26
6. 家庭の使用人 .....	28
7. 交通事情 .....	30
8. 通 信 .....	32
9. マスコミ .....	33
10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ .....	34
11. その他のサービス .....	37
12. 観 光 .....	38
13. 治安, 緊急時の心得 .....	39
14. 出入国手続きおよび帰国手続き .....	40
15. 私財の輸送, 引取り, 購入 .....	42
16. 社 交 .....	44
17. 任国公官庁 .....	45
18. 在外日本関係機関等 .....	46
19. 地方都市 .....	47

## I 一般事情

## 1. 主要指標

- 1-1 国名 キリバス共和国  
Republic of Kiribati
- 1-2 独立 1979年7月12日(旧宗主国：イギリス)
- 1-3 首都 タラワ Tarawa  
人口 2万2,000人(1985年)
- 1-4 面積 720平方キロメートル(対馬とはほぼ同じ)
- 1-5 気候 海洋性の気候で気温は26°Cから32°Cで気温の年較差は小さい。  
年間降雨量は地域により差が大きく、クリスマス島の700mmからワシントン島の4,000mmと島により異なるが、タラワでは1,500mmを記録している。  
平均湿度は海洋性気候のため、75~80%と周年にわたって比較的高く、大きな変化はない。

タラワにおける平均気温表

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温	27.7	27.7	27.6	27.7	27.9	27.8	27.8	27.9	28.1	28.0	27.9	27.9
降水量	290	203	140	196	142	122	102	198	158	71	58	318
平均温度	77	75	77	77	76	75	74	74	73	71	69	76

- 1-6 人口 6万5,000人(1986年)
- 1-7 人種構成 人種的にはミクロネシア人が98%と圧倒的に多く、その他、若干のポリネシア人、ヨーロッパ人がある。
- 1-8 言語 公用語：キリバス語、英語
- 1-9 宗教 キリスト教(カトリック、プロテスタント)

## 主要指標

### 1-10 政 治

- (1) 政 体 共和制  
(2) 元 首 イエレミア・T・タバイ大統領  
(Hon. Ieremia T. Tabai)  
(3) 議 会 一院制(39議席)  
(4) 政 党 従来キリバスには政党はなく、議会にはタバイ派とラチエタ派があったのみであるが、1985年8月のソ連との漁業協定締結を機に、議会内に反タバイ勢力により「キリスト教民主党」が結成された。

### 1-11 経 濟

- (1) 国民総生産 3,200万ドル  
一人当たり 480ドル(1987年)  
(2) 主要産業 農業：コブラ、野菜  
漁業  
(3) 貿 易 輸出 338万8,000ドル  
輸入12万5,000ドル(1986年)  
(4) 財 政 歳入 1,879万1,000オーストラリア・ドル  
歳出 1,873万7,000オーストラリア・ドル(1984年)  
(5) 通 貨 通貨単位：オーストラリア・ドル  
(Australian Dollar)  
略号 : \$A  
為替相場 : 1\$A = 0.7790US\$(S)  
0.7830US\$(B)  
(1989年10月末)

### 1-12 日本との時差

時差は3時間で、日本の正午はキリバスでは午後3時である。

## 2. 略 史

紀元前	ギルバート諸島に人類居住
1537年	スペイン人がギルバート諸島に渡航した可能性あり
1606年	スペイン人キロス、ブタリタリ島(ギルバート諸島)を望見
1788年	イギリス海軍大佐ギルバートが訪問
1856年	アメリカ合衆国、グアノ法によりライン諸島およびフェニックス諸島の14島嶼に対し領有権を主張
1877年	イギリス、フィジー総督を西太平洋高等弁務官に併任
1888年	イギリス、ファニング島およびクリスマス島を併合
1889年	イギリス、ワシントン島を併合
1892年	イギリス、ギルバート諸島、次いでエリス諸島を保護領と宣言
1900年	イギリス、バナバ島を併合
1916年	イギリス、ギルバートおよびエリス諸島を併合し、これを「ギルバート・エリス諸島植民地」とした。 同年、バナバ島、ファニング島、ワシントン島の一部を同植民地に編入
1919年	イギリス、ワシントン島を「ギルバート・エリス諸島植民地」に編入
1937年	イギリス、フェニックス諸島を「ギルバート・エリス諸島植民地」に編入
1938年	フェニックス諸島(ガードナー、ハル、シドニー各島)に入植開始
1939年	イギリスおよびアメリカ合衆国、カントン島およびエンダベリ島(フェニックス諸島)を共同統治
1941年	日本軍、バナバ、タラワおよびマキン(ブタリタリ)を占領
1943年	アメリカ軍、タラワおよびマキンを占領
1956年	植民地会議(Colony Conference)初会合
1956~58年	イギリス、クリスマス島で核実験
1962年	アメリカ合衆国、クリスマス島で核実験

## 略 史

- 1963年 執行評議会(Executive Council)および諮詢評議会(Advisory Council)設置、以後独立まで何度か立法・行政組織を改正
- 1972年 イギリス、西太平洋高等弁務官より分離し、最初の総督を任命。同年南ライン諸島を「ギルバート・エリス諸島植民地」に編入
- 1974年 植民地憲法を制定。  
「House of Assembly」「Council of Ministers」および  
「Chief Minister」を設置
- 1975年 エリス諸島(ボリネシア系)が分離(10月1日)され、トゥヴァルと改称(その後トゥヴァルは1978年10月1日イギリスより独立)、住民議会を設立
- 1977年 ギルバート諸島、内政自治に移行
- 1978年2月 総選挙で首席大臣(独立後、大統領になる)にタバイを選出  
同年、制憲議会(於ロンドン)により、独立につきイギリス政府と合意
- 1979年7月12日 独立
- 1979年9月 キリバス、アメリカ合衆国友好条約調印、アメリカ合衆国はグアノ法による14島嶼に対する領有権主張を放棄(ただしカントン島は実際上共同統治)
- 1982年3月～4月 独立後初の総選挙を実施  
5月 大統領にタバイを再選  
12月 内閣不信任案の可決により議会解散
- 1983年 1月 総選挙  
2月 大統領選挙にてタバイ再選される  
9月 キリバス・アメリカ合衆国友好条約発効

### 3. 政治, 外交

#### 3-1 最近の政情

1978年2月の総選挙でタバイがラチエタを押えて首席大臣(独立後、大統領になる)となり、1982年5月大統領選出国民投票でも国民の厚い信望を得て大統領に再選された。この間1980年には政府関係労働組合の大規模なストライキが起きたが、タバイ政権の強い姿勢で解決して以来、国内の政治情勢は安定しているかに見えたが、1982年12月、上級公務員の給与引き上げ法案に対する議会の支持が得られず、内閣は総辞職するとともに国会も解散となった。その後1983年1月に再選挙が行われ、タバイは国会議員として再選され、同年2月大統領として三選された。

タバイ前政権は、漁業を主とした経済開発とともに、地方分権化、離島振興および家族計画の普及による人口抑制を重点とする政策をとっていた。

#### 3-2 外 交

キリバスの外交政策は、まず太平洋諸国、特に南太平洋諸国(オーストラリア・ニュージーランドを含む)との友好関係維持、強化を基調としている。この基本政策に基づき、南太平洋委員会(SPC)および南太平洋フォーラム(SPF)の活動に積極的に参加しており、1980年7月、タラワで第11回SPF会議が開催されている。

また、アメリカ合衆国、日本等の西側陣営との友好関係を深めており、1987年にアメリカ合衆国とマグロ漁の漁業協定に調印した。

なお、前年8月にもソ連と漁業協定を締結したが、ソ連が入漁料の値下げを要求したため延長せず、1986年10月に失効している。

## 経済事情

### 4. 経済事情

#### 4-1 概観

キリバスの経済は、ナウルと同様、燐鉱石の生産および輸出を主体としてきた。しかし、燐鉱石資源が1979年に完全に枯渇して以来、きわめて苦しい状況にある。今後とも独立直後の時期と同様、国家建設の基礎造りをイギリスの財政援助と諸外国の開発援助に依存しつつ、漁業開発の促進等により新しい経済構造模索の時期が続くであろう。

国内総生産 (GDP) (単位:百万オーストラリア・ドル)

年	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984
GDP	33.64	34.94	39.50	36.61	23.27	22.56	25.17	26.73	29.17

#### 4-2 産業

##### (1) 農業

農業の中で最も重要な位置を占めるのがコブラの生産である。しかし、その生産はその年の降雨量により著しく影響されており安定的な生産が難しい。

コブラをのぞく農産物には見るべきものは少ない。野菜については現在加工品も含めてほとんど輸入に頼っているが、この輸入野菜類の代替を目的として試験栽培が進められている。

コブラ生産状況 (単位:1,000トン)

年	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983	1984	1985	1986
生産量	8	8	10	9	8	11	10	7	13	8	6

## 経済事情

### (2) 水産

キリバスの水産資源は、燐鉱石枯渇後の最も重要な資源として開発に期待が寄せられている。1981年4月にMAUTARI国営漁業公社が設立され、カツオ漁の操業や地元漁民の漁獲物の買上げ販売を行い、キリバスの漁業開発に重要な役割を果している。

我が国は水産無償によるカツオ訓練船や冷凍庫の供与および専門家の派遣により、キリバスの水産開発に協力している。

### (3) 鉱物資源

キリバスの経済を支えてきた燐鉱石の生産状況の推移は次のとおりである。

燐鉱石の生産状況

	生産量(t)	輸出価格(\$A)
1970年	50万1,000	533万8,000
1971年	62万6,000	751万0,000
1972年	50万4,000	604万3,000
1973年	73万0,000	1063万7,000
1974年	52万2,000	1885万1,000
1975年	52万1,000	2674万5,000
1976年	42万0,000	1715万5,000
1977年	41万9,000	1574万1,000
1978年	45万6,000	1785万0,000
1979年	44万6,000	1795万3,000
1980年	0	0

## 経済事情

### 4-3 財政

キリバスの政府財政は、1980年以降それまでの財源の50%以上を占めていた燐鉱石の収入がなくなったため、大きく縮少せざるを得なくなっている。

このため旧宗主国イギリスはキリバス政府の経常予算へ1982年までの期限つきで合計910万オーストラリア・ドルを財政援助し、1983年以降についてはその都度協議することとした。1983年度の財政援助は280万オーストラリア・ドルとなったが、この援助は年々減少しており、財政の自主体制を整えることがキリバスにとっての最大の課題となっている。

また、キリバスは1968年に燐鉱石枯渇後に備え、燐鉱石収入から収入均衡留保基金(Revenue Equalization Reserve Fund, RERF)を創設し、その合計額は1980年には7,500万オーストラリア・ドルに達している。

1983年のRERF収入は500万オーストラリア・ドルで、1980年以降はイギリスの財政援助とRERFで政府財政の赤字を支えている。

財政 (単位:1,000オーストラリア・ドル)

	歳入	歳出	収支
1976年	16,974	15,000	1,974
1977年	18,663	17,008	1,655
1978年	20,593	18,989	1,604
1979年	23,271	20,052	3,219
1980年	20,100	19,165	935
1981年	21,077	21,439	-362
1982年	20,454	20,939	-485
1983年	20,811	21,253	-712
1984年	18,791	18,737	54

## 経済事情

### 4-4 貿易、国際収支

キリバスの貿易額の推移は次表のとおりであり、貿易収支は1979年までは燐鉱石の輸出により黒字を維持してきたが、1980年以降一転して大幅な赤字となっている。

貿易収支 (単位:1,000オーストラリア・ドル)

	輸出	輸入	収支
1976年	18,147	10,062	8,085
1977年	18,212	11,693	6,519
1978年	21,596	15,115	6,481
1979年	22,039	15,751	6,288
1980年	2,602	18,263	- 15,661
1981年	3,577	22,830	- 19,253
1982年	2,353	22,772	- 20,419
1983年	4,003	19,606	- 15,603
1984年	12,456	20,877	- 8,421
1985年	6,057	21,582	- 15,525

主要品目別輸出推移 (単位:1,000オーストラリア・ドル)

	1982	1983	1984	1985
魚	515	1,503	1,718	1,017
コブラ	8,795	6,764	11,333	10,376
燐鉱石	-	-	-	-

## 経済事情

主要品目別輸入推移 (単位:オーストラリア・ドル)

	1982年	1983年	1984年	1985年
調製肉	768	870	928	802
米	1,061	1,125	1,134	1,300
小麦粉等	586	595	584	810
砂糖	752	540	555	783
燃料油	1,353	1,138	1,519	1,656
綿織物	229	152	217	254
衣料	189	219	265	339
車両	579	417	258	338

主要輸入国 (単位:1,000オーストラリア・ドル)

	1982年	1983年	1984年	1985年
オーストラリア	9,639	9,120	8,490	8,366
日本	3,995	3,572	3,475	4,566
アメリカ合衆国	2,238	1,265	548	560
イギリス	560	622	899	1,191
ニュー・ジーランド	1,682	2,316	2,411	1,376
香港	316	353	354	422
その他	4,342	2,358	4,700	5,101
計	22,772	19,606	20,877	21,582

## 5. 我が国との関係

### 5-1 政治、外交

1979年7月12日のキリバス独立式典には、我が国は大野明衆議院議員(現労相)を特派大使として派遣し、即日同国を承認した。キリバスの初代バイテケ駐日大使(移動大使)は1982年11月5日に我が国に信任状を奉呈した。また、キリバスにとっては第3番目にあたる名誉領事館が1983年4月東京に開設された。キリバスはかつての太平洋戦争の激戦地として知られ、また、キリバス近海は我が国のかつお、まぐろ漁船にとって重要な漁場であること等に鑑み、経済技術協力を通じ、日本・キリバス関係を緊密化していくことが望まれている。

### 5-2 経済、貿易

1986年のキリバスとの貿易は、輸出が338万8,000ドルで前年比0.4%増、輸入は12万5,000ドル、同16.3%減となった。

主な輸出品目は、ポートランドセメント(シェア17.3%)、建設・鉱山用機械(同11.0%)などである。前年比伸び率をみると、ポートランドセメントの伸びが著しく、7.7倍増となり、軽工業製品全体の増加につながった。

建設・鉱山用機械は1985年には実績がなかったが、1986年には37万3,000ドル輸出され、主要輸出品目となった。自動車は49.3%増となつたものの、1985年に最大の輸出品目であった船舶が輸出されなかつたため、輸送機械全体では81.5%減と落ち込んだ。その他前年実績なしの鉄鋼が23万2,000ドル(シェア6.8%)、石油が4万8,000ドル(同1.4%)輸出されたのは注目に値する。

一方、輸入についてはまぐろ、かつおなどの魚貝類や船舶など1985年に輸入された品目はすべてなくなり、再輸入品のみである。

我が国との関係

(1) 輸出

対キリバス貿易 (単位:1,000ドル)

	1985年	1983年	シェア(%)	伸び率(%)
食料品 さば缶詰	122 85	121 84	3.6 2.5	△1.4 △0.6
原材料 石油	1 0	48 48	1.4 1.4	4,435.5 -
軽工業製品	219	1,152	34.0	425.7
綿維品	50	438	12.9	779.1
非金属鉱物製品	76	610	18.0	700.0
ポートランドセメント	76	586	17.3	668.6
その他の軽工業品	93	104	3.1	12.2
自動車用タイヤ	50	18	0.5	△63.9
重化学工業製品	3,025	2,067	61.0	△31.7
化学品	38	313	9.3	729.6
金属製品	26	362	10.7	1,309.3
鉄銅	0	232	6.8	-
機械機器	2,962	1,392	41.1	△53.0
一般機器	212	714	21.1	236.3
船外モーター	65	68	2.0	4.7
建設・鉱山機械	0	373	11.0	-
電気機械	192	186	5.5	△2.9
発電器	41	58	1.7	42.1
乾電池	70	56	1.7	△19.7
輸送機器	2,528	468	13.8	△81.5
自動車(部品をのぞく)	250	374	11.0	49.3
乗用車(完成品)	56	42	1.2	△24.9
バス(完成車)	70	98	2.9	40.1
トラック(完成品)	125	235	6.9	87.3
船舶	2,239	0	-	△100.0
計	3,376	3,388	100.0	0.4

## (2) 輸入

対キリバス貿易 (単位:1,000ドル)

	1985年	1983年	シェア(%)	伸び率(%)
食料品	143	0	-	△100.0
魚介類	143	0	-	△100.0
まぐろ	125	0	-	△100.0
かつお	18	0	-	△100.0
加工製品	6	0	-	△100.0
輸送機的 船舶	5	0	-	△100.0
5	0	-	-	△100.0
再輸入品	0	125	100.0	-
計	149	125	100.0	△16.3

## 5-3 経済、技術協力

主要援助国は旧宗主国たるイギリス、および日本、オーストラリア等で、二国間ODA受け取り総額は近年1,000~1,500万ドルで推移している。また、国際機関では少額ではあるが、EDF、ADB等がODAを供与している。従来、イギリスが最大の援助国としての地位を占めていたが、同国の援助は近年極端な減少傾向を示している。

我が国がキリバスに対し、水産無償を中心とする無償資金協力および技術協力により援助を積極的に進めてきたこと、また、イギリスの援助が近年減少してきていることに伴い、我が国は1986年実績でイギリスを抜き、キリバスにとり第1位のODA供与国となっている(1986年実績431万ドル、二国間ODA受け取り総額の36.2%、1987年実績は650万ドル)。

無償資金協力では、我が国は過去7次(1987年度まで)にわたる水産無償援助を実施してきており、これにより、キリバスの水産業は今や重要な位置を占めるまでに成長している。たとえば、水産物輸出額が1981~84年の3年間で3.2倍に増大しているなど、大きな効果を上げている。

開発調査では、「南太平洋海底資源調査」の一環として同国周辺の深海底におけるマンガン団塊の賦存状況調査が実施(1987年度、1989年

## 我が国との関係

度予定)されている。また、技術協力では、キリバスの国家規模を考慮し、研修員受入れが中心である。

我が国のODA実績 (支出純額、単位:10,000ドル)

暦年	贈与			政府貸付	合計
	無償資金協力	技術協力	計		
1983	210 (0.4)	43 (0.1)	253 (0.3)	-	253 (0.1)
1984	206 (0.4)	54 (0.1)	260 (0.3)	-	260 (0.1)
1985	243 (0.4)	37 (0.1)	280 (0.2)	-	280 (0.1)
1986	390 (0.5)	41 (0.1)	431 (0.3)	-	431 (0.1)
1987	353 (0.3)	297 (0.3)	650 (0.3)	-	650 (0.1)

(注) ( )内は我が国二国間ODA各形態別総計に占める割合(%)

年度別・形態別実績(1/3) (単位:億円)

	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1982年度までの累計	なし	13.34億円 •漁業振興計画(84)(85) (79年度:5.00) •食糧援助(81年度:0.67) •漁業振興計画(84)(85) (81年度:5.00) •漁業振興計画(84)(85) (82年度:2.00) •食糧援助(82年度:0.67)	4.77億円 研修員受入れ 5人 専門家派遣 5人 調査団派遣 31人 協力隊派遣 - 機材供与 1,560万円 プロジェクト技協 - 開発調査 1件
1983年度	なし	5.00億円 •離島間連絡船建造計画 (5.00)	1.01億円 研修員受入れ 8人 専門家派遣 - 調査団派遣 5人 協力隊派遣 - 機材供与 480万円 プロジェクト技協 - 開発調査 -

我が国との関係

年度別・形態別実績(2/3) (単位:億円)

	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1984年度	なし	5.80億円 •漁獲母船建造計画(85) (5.80)	0.57億円 研修員受入れ 6人 専門家派遣 - 調査団派遣 - 協力隊派遣 - 機材供与 360万円 プロジェクト技協 - 開発調査 1件
1985年度	なし	9.39億円 •漁船水路・島嶼連絡路 建設計画 (9.39)	0.60億円 研修員受入れ 4人 専門家派遣 1人 調査団派遣 12人 協力隊派遣 - 機材供与 1,080万円 プロジェクト技協 - 開発調査 1件
1986年度	なし	2.29億円 •漁船水路・島嶼連絡路 建設計画(II) (1.89) •食料援助 (0.40)	0.38億円 研修員受入れ 7人 専門家派遣 1人 調査団派遣 - 協力隊派遣 - 機材供与 520万円 プロジェクト技協 - 開発調査 1件

我が国との関係

年度別・形態別実績(3/3)

(単位:億円)

	有償資金協力	無償資金協力	技術協力
1987年度	なし	2.53億円 •冷蔵拡張計画 (2.53)	0.71億円 研修員受入れ 8人 専門家派遣 1人 調査団派遣 - 協力隊派遣 - 機材供与 1,370万円 プロジェクト協力 - 開発調査 1件
1987年度 までの累計	なし	38.35億円	8.04億円 研修員受入れ 38人 専門家派遣 8人 調査団派遣 48人 協力隊派遣 - 機材供与 5,220万円 プロジェクト協力 - 開発調査 2件

(注) 1. 「年度」の区分は、有償資金協力は交換公文締結日、無償資金協力および技術協力は予算年度による。

2. 「金額」は有償資金協力および無償資金協力は交換公文ベース、技術協力はJICA経費実績ベースによる。

(参考) 1987年度実施開発調査案件

区分	案件名
鉱業	•南太平洋海底資源調査(CCOP/SOPAC, キリバス, トウヴァル, クック諸島対象)

## II 生活事情

### 1. 食生活

#### 1-1 食 料

##### (1) 一般事情

日常の食生活に必要なものはすべて輸入品であり、一般に市場、個人商店等で入手可能であるが、野菜等はある程度買いだめをしておかないと、船の入港の関係で品薄になることがある。

衛生状態は我慢できる程度である。

##### (2) 主な食料品の出回り状況

米：オーストラリア産米が入手可能である。

パン：パン屋は数軒あり、味はわるいが、焼きたてを入手できる。スーパーのパンは味はよいが、ほかに比べると高価で、月・水・土曜のみ焼いている。

肉類：牛肉、鶏肉はオーストラリアおよびフィジーより輸入しており、日本よりは、はるかに安価である。豚肉はローカルのものが入手可能である。

野菜：島内産の野菜は時々市場に出回る程度で、キャベツ、人参、玉ねぎ、じゃがいも等はほとんど輸入である。船の入港の関係で品切れになることがあるので、ある程度の買いだめをしておくことが望ましい。もっとも冷凍野菜(ほうれん草、野菜のきざんだもの、ポテト、カリフラワー)も入手可能であるので、これで代用することはできる。その他、きゅうり、トマト、なす等も時には入手できることがある。

乳製品：牛乳は最近オーストラリア製のロングライフタイプのものが輸入されている。チーズ、バター等はオーストラリア産が入手できる。

果物：バナナ、りんご、オレンジ、パパイヤ、なし等が入手可能である。パイナップルは缶詰が出回っている。

魚類：市場をこまめにのぞくことにより新鮮な魚が入手可能である。種類は多くなく、タラブス、イカニボン、モロコイ、まぐろ、かつお等が入手できる。時にはたこ、伊勢えび、ワロ(シャコを大きくしたような魚)も売りに来ることもある。

調味料：一部日本製を含めて入手可能である。

## 食生活

食用油：オーストラリア産のものが入手可能である。

酒類：日本酒はないが、ウィスキー、ワイン、ビール等は輸入品が入手可能である。

飲料水：雨水受けのタンクにたまつた水を使用する。必ず一度沸かしたものを使用すること。瓶詰め飲料水は販売されていない。

### (3) 食料の入手

日本食品の専門店はない。各商店によってキムチがあつたり、たくあんがあつたり、みそがあつたりという具合である。いずれにしても種類は少なく、赴任時にまとめて海送することをおすすめする。

## 1-2 調理、食器具等

### (1) 調理、食器具等の入手

冷蔵庫、レンジは住宅に備えつけられている。電気釜、トースター等の家庭用電気製品はほとんど入手不可能である。調理器具、食器類は入手不可能とはいえないが、気にいったものを入手することはまずできない。

### (2) 日本から持参したほうがよい調理、食器具等

一揃いもって行くにかぎる。電気は240ボルト、50サイクル。ソケットはオーストラリア規格の変則である。

## 1-3 外 食

### (1) 飲食店

レストランといったものはないと考えたほうがよい。以下の店はいずれもホテル付属の食堂である。

料理の種類	店 名	場 所	備 考
中華料理	キリバスホテル ポンカフェー	ベシオ ベシオ	
西洋料理	オーティンタイホテル	ビキニブウ	

(2) その他の飲食店

バー、スナックに類する店は多少あるが、近寄らないほうがよい。ホテルのバーを利用するか、クラブを利用する。

## 衣 料

### 2. 衣 料

#### 2-1 衣 料

##### (1) 一般事情

一年を通じて男性は半袖シャツとズボン、女性はブラウスにスカートあるいは、ワンピースというのが一般的である。綿製品、化繊物とも入手可能である。

##### (2) 日本から持参したほうがよい衣料

衣服類は、すべて日本から持参したほうがよい。

##### (3) 任国で調達したほうがよい衣料

特にない。

##### (4) その他留意すべき事項

12月から3月にかけて雨期になることがあり、その間は、朝方は涼しく、時にはタオルケットの使用もありうるので2,3枚用意しておくがよい。風邪をひいて悪寒がするような時にも利用可能である。

#### 2-2 礼 装

##### (1) パーティー

「普通の服装」と指定されるのが一般的である。半ズボンで出席するのは好ましくない。

##### (2) 式 典

独立記念日をのぞきパーティーのときと同様である。独立記念日の招待時には、ネクタイの着用を要求される。

##### (3) その他の冠婚葬祭

パーティーと同様である。

##### (4) その他留意すべき事項

#### 2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

##### (1) 洗 濯

クリーニング店はない。すべて家庭で処理すべきである。アイロンは入手可能。電気洗濯機は注文すれば入手可能であるが、水不足のため、使用できないことが多いかもしれない。

## 衣 料

### (2) 仕立て,修繕

紳士服,婦人服の仕立て,修繕とも可能であるが,布地の種類も少なく,技術的にあまりすすめられない。例えば婦人服の仕立ての場合,完成品にはアイロンもかかっていない。

### (3) 保 管

タンスに吊るしておくだけで十分であるが,湿気止め等を用意するに越したことはない。

## 住 宅

### 3. 住 宅

#### 3-1 住宅事情

##### (1) 一般事情

すべて住宅は住宅公社に属しており、前任者に依頼して、あらかじめよさそうな家を確保しておいてもらうことが必要である。

##### (2) ホテル事情

島内には次の2軒のホテルがある。

ホテル名	TEL	住所	料金	特記事項
オーティンタイ	28084	ビキニブウ	シングル58	拡張後40室
キリバス	26048	ベシオ	シングル40	10室

##### (3) 住宅の探し方

住宅公社の斡旋によるもののみである。

##### (4) 住宅の選定上の留意点

##### (5) 住宅の契約

特に契約というものはない。月に1回家賃を払えばよい。

##### (6) 居住上必要な事項

家屋の維持管理は、住宅公社の責任である。

電話、電気料は月1回、上水道料は3ヶ月に1回くらい請求があり、現金または、小切手で支払う。期限までに支払わないと、すぐ使用を停止されてしまうので注意が必要である(特に休暇帰国等の際)。

台所、その他のゴミは自分で処理するか、毎日巡回してくる清掃車に引き取ってもらう。し尿処理は水洗で、遠くの海に放棄されている。

## 医 療

### 4. 医 療

#### 4-1 赴任前の準備

##### (1) 予防接種

現在義務づけられているものではなく、特にしておくものもない。新生児に必要な予防接種も可能である。

##### (2) その他赴任前に準備したほうがよい事項

眼鏡は病院にて調達可能であるが種類はない。コンタクトレンズは入手不可能である。複数持参するのがよい。常備薬として、風邪薬、胃腸薬等を多目に準備する。

#### 4-2 医療事情

##### (1) 医療機関

病院の種類	機関名	住所 TEL	診療科目	入院の可否	入院費 1日当り
総合病院	TUNGARU CENTRAL HOSPITAL	ビキニブウ 28081	全般	可	一般病棟は無料 個室1日\$7.00

この他に、各地区に診療所があり、簡単なものは処置できる。医療制度は医薬分業である。

なお1990年より日本の援助により新しい病院が建設されることになっており、1991年年内には完成する予定である。

##### (2) 緊急時の対応と措置

内科、外科等の高度な手術治療は当国の中等水準では無理があり、日本に移送するのを原則としている。ただし、飛行便の都合で緊急を要する場合は、シドニー、brisbane、オーストラリア等の在外公館と連絡を取り、これらの都市へ移送する場合もある。

救急車の手配、空港での必要な措置は可能である。

#### 4-3 医薬品等

##### (1) 携行することが望ましい医薬品

ビタミン類も含め、一般家庭用常備薬は持参すること。

## 医 療

### (2) 任国で調達できる医薬品

薬の入手に際しては、原則として医師の処方箋が必要である。また薬は、無料で入手できる。薬によっては日本人の体質になじまないものもあるので、注意する必要がある。

### (3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品は各商店にて入手可能。包帯、ガーゼ等は診療所にて入手できる。

## 4-4 妊娠、出産、育児

### (1) 妊娠した場合の対応

当地での日本人の分娩例はないが、帝王切開も可能。早生児のための保育器も準備されており、流産の場合の措置も問題はない。なお、中絶は原則として禁止されている。

### (2) 出産後の対応

母子検診は保健所で受けられる。予防接種としては、BCG、三種混合(DPT)、はしか等が接種可能である。

育児用品は哺乳瓶、紙おむつ、粉ミルク、ベビーパウダー、ベビー石けん、乳首、衣類等が入手でき、これらはすべて輸入品である。育児上留意すべきことは特になし。

## 4-5 手 術

### (1) 任国で可能な手術

普通の手術は可能である。

### (2) 手術設備の状況

ICUはないが、小さな回復室はある。酸素吸入設備もある。

### (3) その他手術入院時の留意事項

輸血、食事サービスは可能である。手術の際の立ち合いは認められない。つきそいは認めている。

## 4-6 任国でよく罹る傷病

### (1) 一般の疾病

皮膚病、インフルエンザ、結膜炎、下痢等があるが、深刻ではない。

### (2) 風土病、伝染病

デング熱に時々かかることがあるが、とりたてていうほどのものはない。性病患者もいるがわずかである。エイズは今のところない。

(3) 有害動物, 病害虫

デング熱の原因となる蚊, 皮膚病の原因となるネズミがいる程度である。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

一般には雨水をタンクにため, それを利用するか, 上水道を利用するかである。生水の飲料は避けたほうがよく, フィルターを使用するとか, かならず煮沸をするとかすべきである。

(2) その他, 保健衛生に留意すべき事項

家の中にゴキブリや小さな虫が発生するので, ゴキブリホイホイ, バルサン, アリ退治の薬等を持って来ておき, 時々使用することをおすすめする。また, ネズミ退治の薬も必要である。

## 教 育

### 5. 教 育

#### 5-1 教育事情

##### (1) 一般事情

日本の小学校に相当するプライマリースクールは9年である。中・高等学校に相当するセカンダリースクールに進学する場合は通常6年で卒業する。セカンダリースクールは7年である。

就学年令は(新学年は1月から始まる), 本年の4月末にて6才に達する者で, プライマリースクールは義務教育であることから, 就学率はほぼ100%である。

##### (2) 日本人学校

なし。

##### (3) 現地校, 外国人学校

任国派遣者の子弟のために英語で教育を行っている小学校がバイリキに一校ある。ルルバオプライマリースクールという学校で, ヨーロッパ人の子弟およびキリバスの高給取りの子弟とが通学している。

##### (4) 幼稚園

すべて私立で, 月謝は週2ドル50セント程度である。

#### 5-2 入学手続きおよび授業料

##### (1) 日本人学校

なし。

##### (2) 現地校

ルルバオプライマリースクールをのぞいて, すべて無料である。ルルバオの場合, 年間3学期あり, 各学期ごとに112ドルである。

##### (3) 幼稚園

週2ドル50セント程度。

#### 5-3 教育関係施設

##### (1) 図書館

公立のものがあるが, すべて英語とキリバス語によるものである。

##### (2) スポーツ施設

運動場と若干の用具があるのみである。

## 教 育

### 5-4 家庭学習

#### (1) 家庭教師

英会話の勉強に教師を頼むことは可能であるが、日本語で日本の教科書、参考書による家庭教師はいない。

#### (2) 通信教育

#### (3) 携行したほうがよい家庭用教材

当地には日本語の本は市販されていない。年令に応じた本を持参することをすすめる。

## 家庭の使用人

### 6. 家庭の使用人

#### 6-1 一般事情

普通の家庭での使用人は、ハウスガールと呼ばれ、それぞれ条件をつけて雇う。例えば、家内外の清掃、洗濯、場合によっては食事も含めるとか、あるいは家の外と内を1名ずつ計2名にするとか、ケースケースで考えられる。

#### 6-2 運転手

##### (1) 雇用

営業車、公用車をのぞき、運転手を雇うことはない。

##### (2) 日常管理

##### (3) 教育指導

##### (4) その他の留意事項

#### 6-3 メイド/サーバント

##### (1) 仕事の人数と種類

通常、日本人家庭ではハウスガール1人を雇っている。仕事の種類は皿洗い、洗濯、掃除等であり、料理は最初はこちらが手にとって教えないといとまずだめである。

##### (2) 雇用

知人の紹介が多いが、希望者が多いので、複数面接が可能である。契約書を作る必要はなく、条件を口頭で申し渡す。

賃金は週給15~25ドル程度で、金曜または土曜に支払う。休日は土曜日の午後から日曜日まで。祝日は休暇を与える。ボーナスの慣習はないが、クリスマスとか本人の誕生日とかに週給程度の小遣いをあげるとよい。

昇給は年一回程度行う。試用期間は1ヶ月程度。住みこみも、通いもできる。

##### (3) 日常管理

何をしたらよいか、何をしたらわるいかをはっきりさせておけば、それに従順である。生活水準の差もあり、慣習も異なるので、初めのうちに、ことこまかに注意を与える必要がある。盜難等の心配もない。解雇は口頭で申し渡すだけでよい。

## 家庭の使用人

### 6-4 庭師, ガードマン等の雇用

#### (1) 雇用

庭師を雇うほどのことではなく、ハウスガールに常時掃除をさせておき、必要に応じてハウスガールの知人に頼めばよい。1回2ドル程度である。ガードマンは治安がよいので雇っていない。

## 交通事情

### 7. 交通事情

#### 7-1 交通手段

##### (1) 一般事情

島内にはバスがあふれている。ベシオ島だけを走るものと、タラワ循環とがあり、ベシオ島内は1回25セント、他地区へは各地区ごとに料金が設定されており、端から端までで1ドル10セントである。一応バスストップはあるが、どこででも乗降可能である。

##### (2) 自家用車を利用する場合

週末には道路に酔っぱらいが寝ていることがあるので気をつけねばならない。また歩行者もあまり車を気にしないので、歩行者とすれちがう場合には十分注意すること。他車を追い抜く場合には必ずホーンを鳴らすこと。

##### (3) レンタ・カーを利用する場合

1日40ドル程度である。

##### (4) 道路マップ

なし。

#### 7-2 交通事故

##### (1) 対処方法

小さな接触事故であれば、示談となる場合が多い。大きな事故や、人身事故は警察を呼び、調査を作成してもらうこと。もちろん人身事故は病院へ運ぶのが先決である。

##### (2) 救急病院

##### (3) 盗難

車の盗難はない。オートバイの盗難は時々発生している。

#### 7-3 交通違反

##### (1) 交通法規

日本と同様に左側通行、右ハンドルであり、法規も大差ない。

##### (2) 対処方法

島内の最高速度は65Km/Hで、部落のある所は、各々速度制限が異なっている。

#### 7-4 車の修理

##### (1) 部品

ほとんどの車が日本からの輸入車であるので、その点では不便はない。ただし、部品によっては品切れのものがあり、次の船便まで待たねばならないこともある。

##### (2) 修理工場

## 通 信

### 8. 通 信

#### 8-1 電 話

##### (1) 一般事情

島内では主要な所には設置されている。電話ボックスも所どころにあるが、故障の場合が多い。

設置の場合はTELECOMに申込みをすると、1週間程度で設置してくれる。なお、ISDも可能である。

##### (2) 国内電話

島内は1通話15セント、ほかの島への通話はそれぞれ異なった料金である。島内は直接ダイヤル方式である。

##### (3) 長距離(国際電話)

ISDを設置した場合は、直接ダイヤル、そうでない場合はオペレーターに申込む。オペレーターを通じた場合でも、ほとんどそのまま通じる。

日本への料金は1分当たり6ドルである。時間による割引きはない。

#### 8-2 電 信

##### (1) テレックス

各所に設置されている。

##### (2) ファクシミリ

各所に設置されている。

##### (3) 電 報

TELECOMに申込む。

#### 8-3 郵 便

##### (1) 一般事情

封書、葉書ともキリバスから日本へは2週間。日本からも同様である。

郵便は自宅に配達されないので、私書箱を利用する。必ず勤務先気付けにしておくこと。

郵便小包はやはり私書箱宛に通知がくるので、それを持参し、受け取る場合によっては課税されることがある。

## 9. マスコミ

### 9-1 新聞

#### (1) 主な日刊紙

日刊紙はなく、2週間おきに出る『TE UEKERA』がキリバスにおける口コミ以外の情報源であるが、ほとんどの記事はキリバス語である（ごく一部が英語）。

#### (2) 本邦日刊紙

OCS（海外新聞普及株式会社）へ申込む。1週間から2週間遅れで配達される。

#### (3) 欧米紙

### 9-2 ラジオ

#### (1) ラジオ放送局

国営の放送局1局があり、毎日朝6時30分より8時、昼は11時30分より1時30分、夜は6時30分より9時30分まで放送している（英語とキリバス語で放送が行われている）。

#### (2) ラジオジャパン

夜間の南米向けやオーストラリア向け放送の受信状態がよい。受信機は現在周波数がデジタル式のものが販売されていて、便利である。室内アンテナで十分受信可能である。

#### (3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

夜間になると各国の放送が受信可能である。

### 9-3 テレビ

#### (1) テレビ放送局

現在テレビ放送は行われていない。

#### (2) テレビ受信

## 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

### 10. 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

#### 10-1 映画, 演劇

##### (1) 映画館

映画館といったものはないが, 各地の広場, 集会場等で映画が上映されており, 住民たちのよき娯楽となっている。大人60セント程度である。

##### (2) 劇場

ない。

#### 10-2 出版, 書籍

##### (1) 一般事情

国内の出版活動はほとんどない。

##### (2) 書店

KGVという学校に書店があるが, すべてキリバス語のものか, 英文のものである。また, 図書館でもキリバス関連の図書を販売している。

#### 10-3 語学学習

##### (1) 語学学習施設

タラワ職業訓練校の中に施設がある。

##### (2) 家庭教師

知人を介して雇うことは可能である。

#### 10-4 文化活動, 文化施設

##### (1) 一般事情

文化活動は活発ではなく, 文化施設も皆無に近い。

##### (2) 日本/キリバス友好協会等の有無と活動の内容

友好協会は存在しているが, ほとんど活発な動きはなく, たまに日本から使節団等が来ると歓迎会を開いたりする程度である。

##### (3) その他の文化活動, 文化施設

10-5 写真, ビデオ

(1) 写 真

フィルムはコダックが販売されており, 24枚撮りで6ドル13セントである。

DPEは白黒用が可能であるが, カラーはフィジー, 日本, オーストラリア等に依頼することになる。

(2) ビデオセット

ほかに娯楽がないせいか意外と普及している。日本製品が多く, セットで2,000ドル程度である。貸しビデオフィルムも多く, 貸料は1日1本2ドル, 貸しビデオは1日10ドルである。VHSが多い。

(3) ミュージックテープ

オーストラリア, フィジーからのテープが多く, クラシックはない。

10-6 音楽鑑賞, 演奏, 民族楽器

(1) 音楽会, コンサート

ない。

(2) コーラス, 演奏グループ

ない。

(3) ピアノ等

ない。

(4) レコード

レコードは販売されていない。

(5) 民族楽器

(6) その他の楽器

10-7 手芸, 絵画, 美術工芸

(1) 手 芸

特にこれといったものはない。

(2) 絵画, 美術工芸

特にこれといったものはない。

## 教養, 娯楽, 趣味, スポーツ

### 10-8 趣味

#### (1) 園芸

土がないため、まず土作りから始める必要がある。種子も入手がむずかしい。日本の種子は季候の関係で育ちにくい。

#### (2) 釣り

各種の魚釣りが楽しめる。知人の船で出かけるか、岸壁で楽しむ。道具は一部はキリバスでの調達が可能であるが、品不足の時が多い。

### 10-9 娯楽, 遊戯等

#### (1) 娯楽, 遊戯, ゲーム

トランプを使用した賭け事や、bingoを楽しんでいる。

#### (2) 芸能興業

ローカルダンスがときどき催される。

### 10-10 スポーツ

#### (1) ゴルフ

ない。

#### (2) テニス

クラブ所有のコートがあり、会員になればそれを利用できる。

#### (3) スイミング

プールはないが、どこの海岸でも水泳可能である。

#### (4) その他のスポーツ, 用具, ウェア

#### (5) スポーツクラブ等

### 10-11 風俗営業

2軒のバーと5軒のクラブがあり、それぞれビール、ウイスキー、ジュースがある。

### 10-12 子供の遊び

玩具は購入できるがすべて輸入品であり、品質はあまりよくない。

## その他のサービス

### 11. その他のサービス

11-1 美容院  
ない。

11-2 理髪店  
ない。

11-3 日本から持参したほうがよい美容, 理髪用品  
一揃い何でも持っていったほうがよい。

## 観　光

### 12. 観　光

#### 12-1 地方旅行上の注意事項

観光に関しては未開発であり、観光ホテル、観光施設といったものは一切ない。

ベシオ島に第2次大戦激戦の際の、旧日本軍陣地が点在するのみである。

#### 12-2 主要観光地・保養地ガイド

##### (1) 主要観光・保養地

#### 12-3 旅　行

##### (1) 自動車

##### (2) バ　ス

##### (3) 鉄　道

##### (4) 航空機

#### 12-4 エージェント

#### 12-5 ホテル等宿泊施設の手配

## 13. 治安,緊急時の心得

### 13-1 暴動,クーデター等

#### (1) 緊急時の連絡

電話によるか車で連絡する。

### 13-2 強盗,盗難

#### (1) 一般的治安状況

治安は非常によく,ほとんど気にすることはない。

#### (2) 防犯対策

施錠をしておけば,まず心配はない。

#### (3) 被害時の心得

警報ベルを鳴らす。または,警察に通報する。

### 13-3 火災,風水害,地震

#### (1) 一般的災害発生状況

風水害,地震はない。火災も自分自身で気をつければ延焼のケースはまず考えられない。家庭内の電気系統に注意をはらっておく必要がある。火災の場合は警察に連絡する。

#### (2) 防災対策

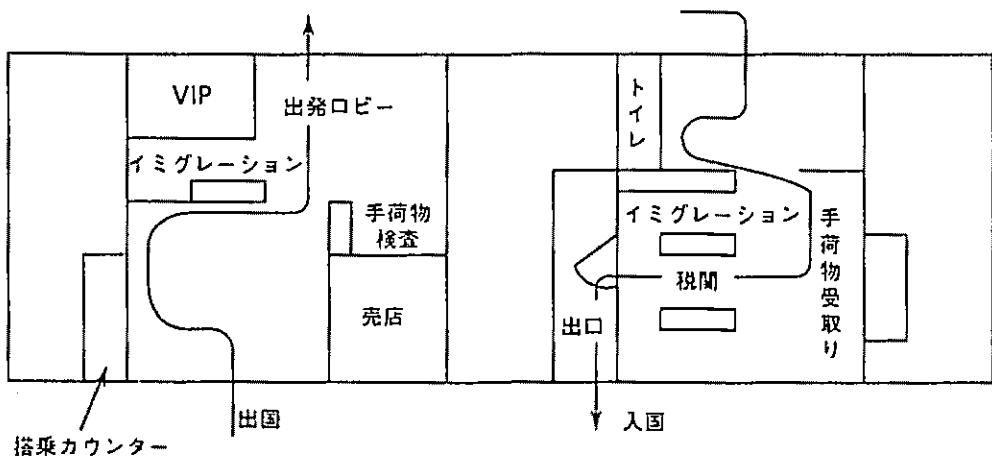
#### (3) 被災時の心得

## 出入国手続きおよび帰国手続き

### 14. 出入国手続きおよび帰国手続き

#### 14-1 入国時

##### (1) 空港施設概要



##### (2) 入国手続き書類

必要書類は入国カードのみで、特に記入上問題となるところはない。

##### (3) 入国審査

原則として査証を所持しているはずであるが、もし、ない場合でも1ヶ月の査証をくれるので、イミグレーションオフィスに行き申請する。20ドル必要である。再延長も容易に認められる。

##### (4) 税関検査

動植物の持込みは厳しく、没収されるのが普通である。旅行ケース、段ボールとともに開けられるが、特にどうということはない。

##### (5) 空港内の注意事項

荷物が到着しない場合があるので、荷札番号とともに、空港職員に知らせておくこと。

##### (6) 空港からのトランスポーテーション

バスが常時発着しているので、それを利用する。レンタカーは予約が必要である。

##### (7) その他の留意点

## 出入国手続きおよび帰国手続き

### 14-2 出国時

#### (1) 施設

空港施設概要を参照。

#### (2) 出国手続き上の留意点

ビザの有効期間中は再入国ビザは必要ない。出国時5ドルの空港税をとられる。

### 14-3 帰国手続き

#### (1) 帰国に必要な事務手続き

特にない。

#### (2) 車の処分

買い手を見つけるのは口こみである。個人またはディーラーに売ることになる。

#### (3) 家財道具の処分

口こみにより、処分することになる。

#### (4) 住宅の明け渡し

住宅公社へ連絡すればよい。

#### (5) 銀行口座の閉鎖

窓口で閉鎖用の用紙にサインすればよい。

## 私財の輸送,引取り,購入

### 15. 私財の輸送,引取り,購入

#### 15-1 家財道具

##### (1) 輸送業者

サプライディビジョンが扱っているが,単にシッピングドキュメントを用意するのみで,梱包は自分でやることになる。梱包用の材料も当地にはないので,日本から送った時のものを保存しておき,帰国の際これを使用しなくてはならない。

##### (2) 輸入手続き

船積み書類を税関に提出すればよい。問題なければ即日引取り可能である。

#### 15-2 自動車

##### (1) 一般状況

輸入規制,車種および排気量規制はない。新車または,中古車を日本より購入するか,現地購入するかのどちらかである。現地購入の場合でも費用としては,購入に比べてあまり差はない。

##### (2) 輸入手続き

船積み書類と免税許可となる書類(AI-FORM)を税関に提出すればよい。

##### (3) 任国での購入

現地ディーラーを通じる場合,入手までに約8週間必要とする。価格(無税)は次のとおり。

2,000cc	1万4000 ドル
1,500cc	1万 ドル
1,000cc	9000 ドル

##### (4) 自動車登録に必要な書類

輸入または購入した車とともに,タウンカウンシルに行き,車の銘柄と所有者の名前を登録する。その際30ドル支払う。同時にナンバーが通告される。

##### (5) ナンバープレートの取得

同上のナンバーをラバーの板に白ペンキで記入し,個人で取付けられる。

## 私財の輸送,引取り,購入

### (6) 免許証の取得

日本の免許証または,国際免許証をタウンカウンシルに提出すれば,  
その場で当国の免許証が交付される。

費用は1年3ドルであり,毎年更新する。

### (7) 保険,税金

強制保険はなく任意保険のみである。1万4,000ドルの車で年間840  
ドル程度,無事故あるいは保険金を請求しなかった場合,毎年20%ずつ  
40%まで下がる。請求額は100ドル以上であり,100ドルまでは本人負  
担となる。

車の輸入税は次のとおり(1989年現在)。

1,500cc以上 80%

1,499cc以下 60%

## 社　　交

### 16. 社　　交

#### 16-1 風俗習慣

ほとんど西洋化されて現地の風俗習慣というものにはお目にかけれない。

#### 16-2 パーティでの留意点

特に留意する点はない。

#### 16-3 禁止されている言動

西欧的な礼儀を心得ていれば問題ない。

任国公官庁

17. 任国公官庁

省庁名	所在地	電話
外務省	バイリキ	21342
内務・地方分権省	バイリキ	21092
天然資源開発省	バイリキ	21099
通信・運輸省	ベシオ	26435
公共事業・エネルギー省	ベシオ	26192
貿易・産業・労働省	バイリキ	21097
大蔵省	バイリキ	21082
教育省	ビキニブウ	28091
保健・家族計画省	ビキニブウ	28081

在外日本關係機關等

18. 在外日本關係機關等

ない。

19. 地方都市

## 任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は、国際協力のために赴任されるJICA長期派遣専門家、JICA職員等の方々に、任国での生活上必要な最新の情報を提供する目的で作成されました。

本書の原データは国際協力総合研修所内のデータベースに蓄積されており、新しいデータが入手され次第、逐次更新できるシステムにしております。

現在までに、下記の国々について任国情報が整備されております。

なお、政府技術協力のために赴任するJICA役職員および派遣専門家は、技術協力協定や要請文書などの外交関係により、任国への入国および滞在にあたって特別の条件が付され、一定の義務が免除されるなどの特権が付与されています。本情報はこれらの条件に基づいた赴任マニュアルであり、JICAの用務による業務渡航者用に作成されていることをあらかじめご了承願います。

また、本情報は外国人専門家という特殊なステータスによる生活ガイドであって、それぞれの国の人々の一般的な暮らしづくりを紹介するものではありません。各国の一般的な各種事情については、JICA図書館に多数資料をそろえておりますので合わせてご利用ください。

### — アジア地域 —

1. バングラディッシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. 中国
5. インドネシア  
(ジャカルタ、バンドン、  
ジョグジャカルタ、メダン )
6. マレーシア
7. ミャンマー
8. ネパール
9. パキスタン
10. フィリピン
11. シンガポール
12. スリランカ
13. タイ(バンコク、チェンマイ、コシケン)

### — 中近東地域 —

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. ジョルダン
5. クウェイト
6. モロッコ
7. オマーン
8. カタール
9. サウディ・アラビア
10. 南エメン
11. スーダン
12. シリア
13. トルコ(アンカラ、イスタンブール)
14. アラブ首長国連邦(ドバイ)
15. イエメン

### — 太平洋地域 —

1. フィジー
2. キリバス
3. マーシャル
4. ミクロネシア
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン
7. ヴァヌアツ

### — アフリカ地域 —

1. ブルンディ
2. エティオピア
3. ガンビア
4. ガーナ
5. 象牙海岸
6. ケニア
7. リベリア
8. マダガスカル
9. モーリシャス
10. ニジェール
11. ナイジェリア
12. ルワンダ
13. セイシェル
14. ソマリア
15. タンザニア(ダルエスサラーム、ザンジバル)
16. トーゴー
17. ザイール
18. ザンビア

### — 中南米地域 —

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア(ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル  
( ブラジリア、サンパウロ、レシフェ、  
ボルトアレグレ、ペレーン )
4. コロンビア
5. コスタ・リカ
6. ドミニカ共和国
7. エクアドル
8. グアテマラ
9. ホンジュラス
10. メキシコ
11. パナマ
12. パラグアイ  
( アスンシオン、エンカルナシオン )
13. ペルー
14. トリニダード・トバゴ
15. ウルグアイ
16. ヴェネズエラ

## 任国情報コメント用紙

本書をより使い易いものとするために、皆様からの貴重なご意見(説明不足、間違  
い、誤字、誤植、ご要望など)をお待ちいたしております。ご記入に際しましては、任  
国情報に関するこのみ具体的にご指摘くださるようお願ひいたします。

[返送先] 〒162 東京都新宿区市谷本村町10-5

国際協力センタービル

## 国際協力事業団 国際協力総合研修所

技術情報課 任国情報係

国名 年度 年版

氏名			年齢	歳	性別	男・女	
利用区分	所属(担当)部課名	指導科目	派遣期間				
JICA役職員							
JICA専門家等							
その他		(所属先)	(当該国での滞在期間)				
住所							
電話番号				日付	年	月	日

国 総 研 記 入 欄					
記 事		技術情報課確認印			
		データベース修正処理	課長	代理	担当
月 日	月 日	月 日	月 日		

---

JICA